

# 景 気 動 向 調 査

( 第 155 回 )

2009 年 7 月 ~ 9 月 期 実 績

2009 年 10 月 ~ 12 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1．県内景況感について	.....	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5．経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

- 1．実施時期 2009年9月下旬～2009年10月上旬
- 2．調査対象期間 2009年7月～9月期実績  
2009年10月～12月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業400社
- 5．回答数 193通（回答率48.25％）  
<内訳> 製造業64社 建設業44社 卸・小売業85社
- 6．調査の主要項目 (1)業況について  
(2)設備投資の動向について  
(3)資金繰りの状況について  
(4)当面する経営上の問題点について

以 上

#### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

## 概 況

### ～ 景況感の改善の動き続く ～

2009年7～9月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で82.2と前期（4～6月期）84.7より2.5ポイント上向きとなった。

前期に引続き、景況感に改善の動きがみられた。全体的な景況感は、1～3月期を底にして持ち直しの動きが続いている。

項目別に前回調査時（2009年4～6月期実績）と比較してみると、今期は景況感、売上高、仕入高、在庫、収益で上向いているが、資金繰りは下向いている。卸・小売業は大半の項目で上向いているが、製造業は出荷高、生産高、収益が下向いている。建設業は売上高の項目が大きく上昇し、収益も上向いている。来期見通しについては、各業種とも資金繰り以外は上向く見通しとなっている。

国内経済をみると、公共投資が各種経済対策により増加しているほか、海外経済の持ち直しや在庫調整などを背景に輸出や生産も増加を続けている。設備投資の減少ペースは緩やかになってきている。個人消費は厳しい雇用・所得環境が続くなかで全体として弱めの動きとなっており、住宅投資も減少している。雇用情勢などの先行き不安材料はあるものの、総体としての景気動向は下げ止まりつつある。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は在庫調整の進展や需要回復などから緩やかに持ち直している。公共投資はほぼ前年並みの水準となっているが、設備投資、住宅建設は依然として落ち込んでいる。雇用情勢は有効求人倍率が低水準で推移し厳しい状況となっているほか、個人消費も全体では弱い動きが続いている。総体としての岩手県内景気は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きも一部にみられる。

#### < 参考 >

#### 岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感DI
1	第153回	09年1～3月	92.7
2	第152回	08年10～12月	91.3
3	第124回	01年10～12月	91.2
4	第109回	98年1～3月	90.6
5	第111回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について  
全体のD Iは、今回調査では前期に引続き上向きとなり、前期比2.5ポイント上昇して 82.2となっている。各業種別のD Iをみると、製造業が2.3ポイント、卸・小売業が6.6ポイント上昇している。  
10～12月期見通しでは、製造業が21.8ポイント、建設業が14.3ポイント、卸・小売業が21.8ポイント上向く見通しとなっている。
2. 業況について
  - (1) 売上高または出荷高  
D Iは、全体では3.4ポイント上向きとなっている。業種別では、建設業が16.5ポイント、卸・小売業が12.2ポイント上向いているが、製造業が17.3ポイント下向いている。
  - (2) 生産高または仕入高  
製造業の生産高は6期連続してマイナスの水準となっている。卸・小売業の仕入高は前期に引続き上向き、14.1ポイント上昇している。
  - (3) 在 庫  
製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫とも上向きとなっている。在庫水準では、「適正」とする比率が製造業で上昇している。
  - (4) 収 益  
建設業と卸・小売業で上向いており、特に卸・小売業の上昇幅が大きい。10～12月の見通しでは建設業の上昇幅が大きい。
  - (5) 販売価格・仕入価格  
D Iは、仕入価格が下向いている。10～12月の見通しでは販売価格、仕入価格とも上向いている。
3. 設備投資の動向について  
全体で見ると設備投資を「実施した」企業は18.1%とほぼ横ばいとなっており、業種別では、製造業と建設業が下向き、卸・小売業が上向いている。  
なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位となっている。
4. 資金繰り状況について  
製造業が横ばいで、建設業と卸・小売業が下向いている。特に建設業の低下幅が大きい。来期の見通しについては、建設業のみが上向く予想となっている。
5. 経営上の問題点について  
上位の3項目に変わりはないが、製造業では「受注不振」が5期連続でトップとなっている。

# 1. 県内景況感について

## ～ 全業種で来期見通し上向く ～

【7～9月期の実績】 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が2.6%（前期1.4%）、「悪い」が84.8%（同86.1%）で、DIは82.2（同 84.7）と、2.5ポイント上向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が82.2（同 84.5）、建設業が77.2（同 72.9）、卸・小売業が84.5（同 91.1）となっている。製造業、卸・小売業が上向いている。

【10～12月期の見通し】 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が7.6%、「悪くなる」が69.5%であることから、DIは61.9となり、7～9月期実績と比較すると上向く見通しとなっている。

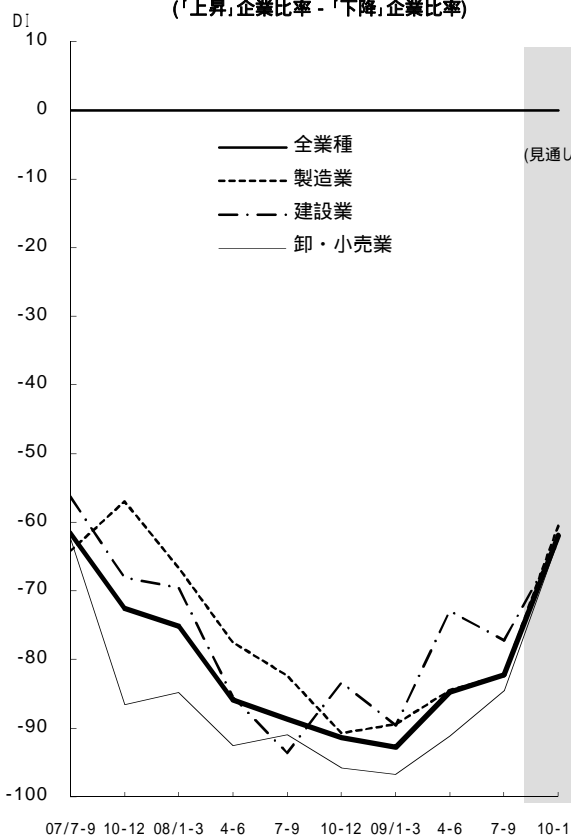
業種別にみると、製造業が60.4、建設業が62.9、卸・小売業が62.7となっており、全業種が上向く見通しの回答結果であった。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	7～9月 (実績)	0.5	2.1	12.6	43.7	41.1	-82.2
	10～12月 (見通し)	1.6	6.0	22.9	39.1	30.4	-61.9
(製造業)	7～9月 (実績)	0.0	0.0	17.8	40.3	41.9	-82.2
	10～12月 (見通し)	1.7	6.9	22.4	34.5	34.5	-60.4
(建設業)	7～9月 (実績)	2.3	0.0	18.2	50.0	29.5	-77.2
	10～12月 (見通し)	0.0	2.3	32.5	41.9	23.3	-62.9
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	0.0	4.8	5.9	42.9	46.4	-84.5
	10～12月 (見通し)	2.4	7.2	18.1	41.0	31.3	-62.7

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率・「下降」企業比率)



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 建設業、卸・小売業で上向く ～

[7～9月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.6%(前期15.3%)、「減少」が66.3%(同69.4%)となり、DIは50.7(同 54.1)と3.4ポイント上昇し前期に引続き上向きとなっている。

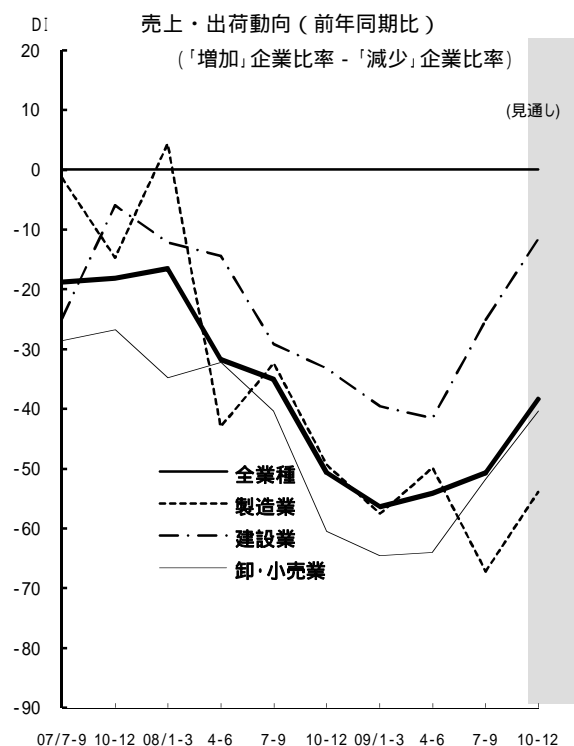
業種別にDIをみると、製造業 67.2(前期 49.9)、建設業 25.1(同 41.6)、卸・小売業 51.8(同 64.0)となっており、製造業で下向いているが、建設業、卸・小売業は上向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が20.0%、「減少」が58.4%であることからDIは 38.4で、7～9月期実績と比較して12.3ポイント上向く見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業で 53.9、建設業で 11.6、卸・小売業で 40.4となっており、7～9月期実績と比較して各業種とも上向く見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	5.2	10.4	18.1	39.9	26.4	-50.7
	10～12月 (見通し)	3.2	16.8	21.6	37.9	20.5	-38.4
(製造業)	7～9月 (実績)	0.0	4.7	23.4	46.9	25.0	-67.2
	10～12月 (見通し)	0.0	12.7	20.7	47.6	19.0	-53.9
(建設業)	7～9月 (実績)	9.1	13.6	29.5	27.3	20.5	-25.1
	10～12月 (見通し)	4.7	27.9	23.2	27.9	16.3	-11.6
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	7.1	12.9	8.2	41.2	30.6	-51.8
	10～12月 (見通し)	4.8	14.3	21.4	35.7	23.8	-40.4



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業の生産高下向き続く ～

[7～9月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が4.7%（前期12.7%）、「減少」が65.6%（同64.8%）で、DIは 60.9（同 52.1）と8.8ポイント下向いている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は21.7%（前期11.4%）、「減少」が67.5%（同76.1%）で、DIは 45.8（同 59.9）と14.1ポイント上昇している。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が11.1%、「減少」が63.5%であることから、DIは 52.4で、7～9月期実績と比較して8.5ポイント上向いている。

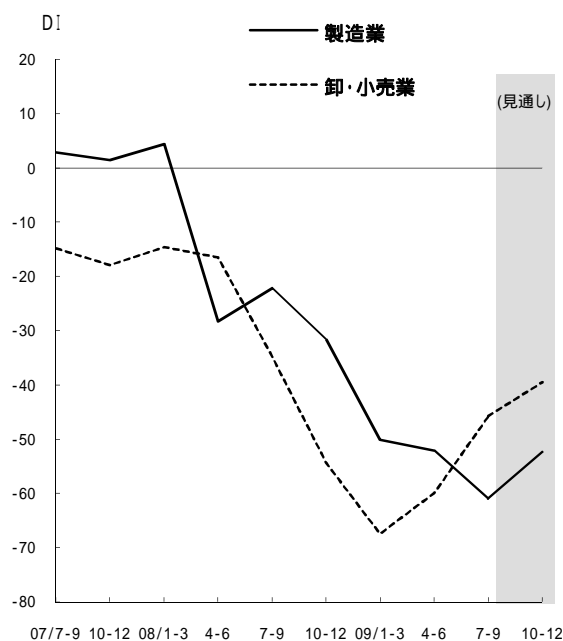
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が16.0%、「減少」が55.5%であることから、DIは 39.5となり、7～9月期実績と比較して6.3ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	7～9月 (実績)	1.6	3.1	29.7	42.2	23.4	-60.9
	10～12月 (見通し)	0.0	11.1	25.4	46.0	17.5	-52.4
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	8.4	13.3	10.8	39.8	27.7	-45.8
	10～12月 (見通し)	4.9	11.1	28.5	39.5	16.0	-39.5

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)





### (3) 在庫

#### ～ 製造業、卸・小売業とも上向く ～

[7～9月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は13.1%（前期11.4%）、「減少」が44.2%（同48.6%）であることから、DIは 31.1同 37.2）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が8.5%（同10.3%）、「適正」が81.9%（同77.6%）、「不足」が9.6%（同12.1%）である。

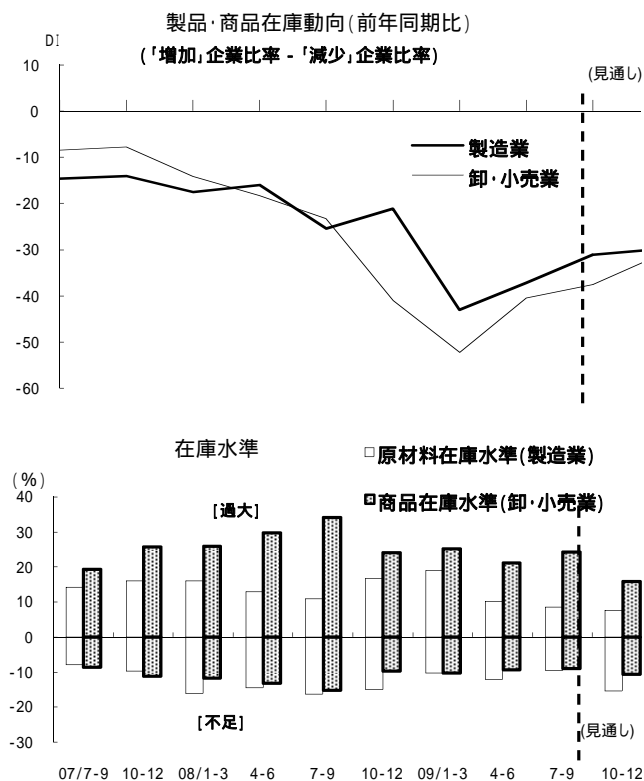
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が8.8%（前期6.0%）、「減少」46.3%（同46.4%）であることから、DIは 37.5（同 40.4）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が24.4%（同21.3%）、「適正」が66.6%（同69.4%）、「不足」が9.0%（同9.3%）である。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が11.7%、「減少」が41.6%で、DIは 29.9となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が7.7%、「適正」が77.0%、「不足」が15.3%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が7.8%、「減少」が39.0%であることから、DIは 31.2となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が16.0%、「適正」が73.4%、「不足」が10.6%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	7～9月 （実績）	1.6	11.5	42.7	34.4	9.8	-31.1
	10～12月 （見通し）	1.7	10.0	46.7	33.3	8.3	-29.9
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	1.3	7.5	44.9	35.0	11.3	-37.5
	10～12月 （見通し）	1.3	6.5	53.2	31.2	7.8	-31.2



#### (4) 収 益

～ 各業種とも見通し上向く ～

[7～9月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が19.2%（前期13.4%）、「減少」が61.0%（同65.0%）であり、D Iは 41.8（同 51.6）となり9.8ポイント上向いている。

業種別にD Iをみると、製造業 50.0（前期 46.5）、建設業 50.0（同 56.2）、卸・小売業 30.9（同 53.3）と、建設業と卸・小売業で上向いており、特に、卸・小売業の上昇幅が大きい。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が18.7%、「減少」とみる企業が50.3%であることから、D Iは 31.6で、7～9月期実績と比較して10.2ポイント上向く見通しとなっている。

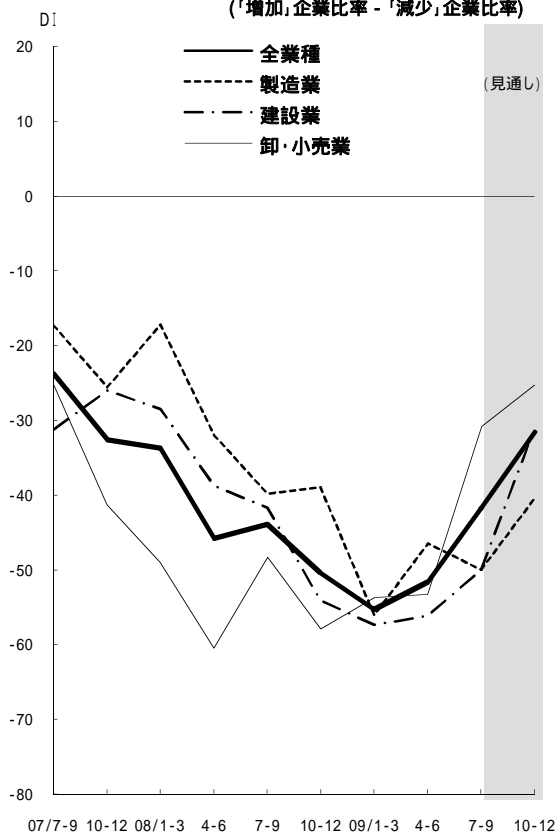
業種別にD Iをみると、製造業は 40.4、建設業 31.0、卸・小売業 25.3で、7～9月期実績と比較して、全業種で上向く見通しとなっている。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	3.1	16.1	19.8	36.5	24.5	-41.8
	10～12月 (見通し)	3.2	15.5	31.0	32.1	18.2	-31.6
(製造業)	7～9月 (実績)	0.0	15.6	18.8	35.9	29.7	-50.0
	10～12月 (見通し)	3.2	14.5	24.2	37.1	21.0	-40.4
(建設業)	7～9月 (実績)	2.3	6.8	31.8	34.1	25.0	-50.0
	10～12月 (見通し)	0.0	14.3	40.4	28.6	16.7	-31.0
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	6.0	21.4	14.3	38.1	20.2	-30.9
	10～12月 (見通し)	4.8	16.9	31.3	30.1	16.9	-25.3

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格上向く ～

[7～9月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が7.4%（前期9.7%）、「低下」が36.7%（同39.7%）であることから、DIは29.3（同 30.0）と僅かに上向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が15.3%（前期19.6%）、「低下」が23.2%（同21.5%）であることから、DIは7.9（同 1.9）と下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が6.9%、「低下」とみる企業が31.0%であることから、DIは24.1で、7～9月期実績と比較して上向く見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が14.0%、「低下」とみる企業が21.5%であることからDIは7.5となり、7～9月期実績とほぼ同様の見通しとなっている。

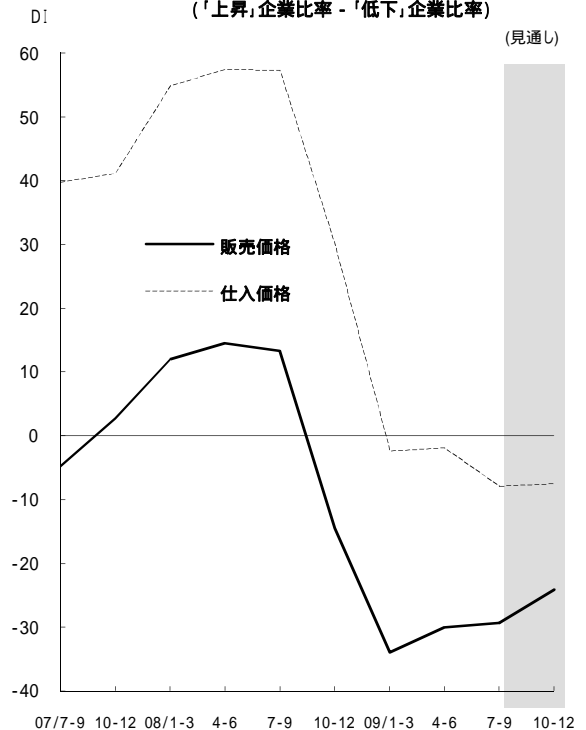
販売価格(前年同期比)

		(%)					
		上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	7～9月 (実績)	1.6	5.8	55.9	26.2	10.5	-29.3
	10～12月 (見通し)	0.5	6.4	62.1	23.0	8.0	-24.1

仕入価格(前年同期比)

		(%)					
		上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI
全業種	7～9月 (実績)	1.6	13.7	61.5	17.9	5.3	-7.9
	10～12月 (見通し)	1.1	12.9	64.5	16.7	4.8	-7.5

価格動向(前年同期比)  
(「上昇」企業比率 - 「低下」企業比率)



### 3. 設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

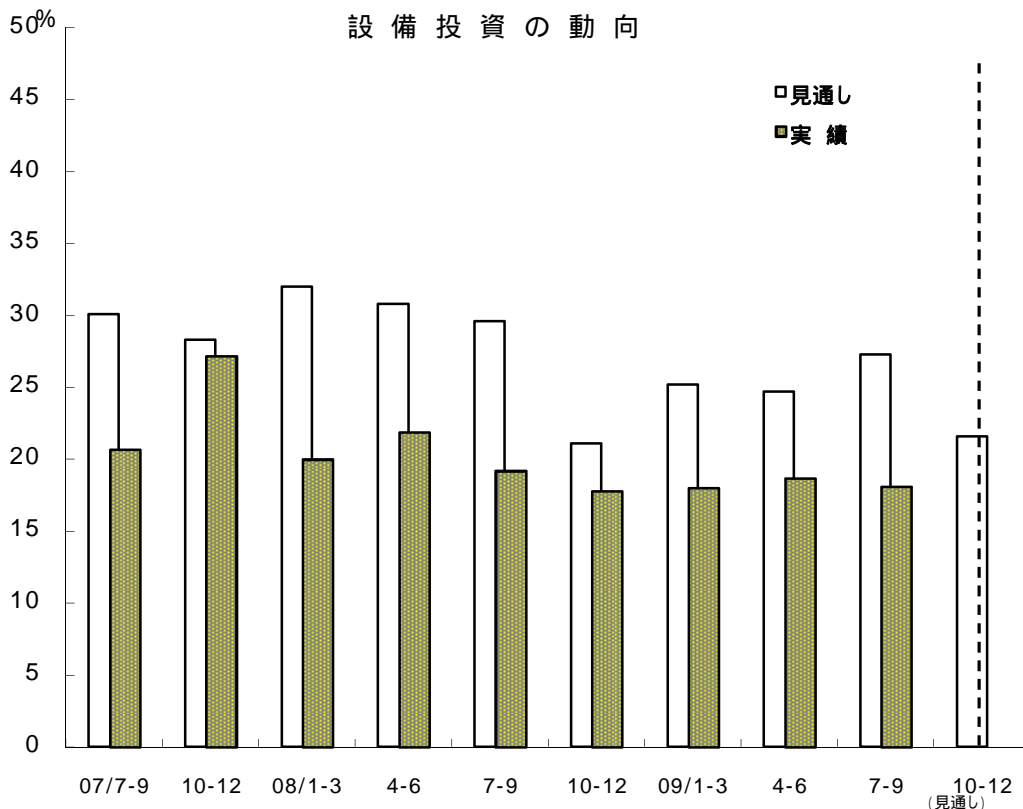
～ 横ばい続く実施状況 ～

[7～9月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は18.1%（前期18.7%）で、ほぼ横ばいとなっている。

これを業種別にみると、製造業21.3%（前期28.1%）と建設業が9.3%（同10.4%）が下向いており、卸・小売業は20.5%（同15.5%）と上向いている。

[10～12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で10.5%（前期13.9%）、「計画はあるが具体化していない」は11.1%（同13.4%）、「計画はない」は78.4%（同72.7%）であった。「計画あり」は合計21.6%（同27.3%）と前期予想より下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で27.0%（前期29.2%）、建設業で9.4%（同12.5%）、卸・小売業で23.8%（同33.7%）の見通しとなっている。



## (2) 設備投資の目的

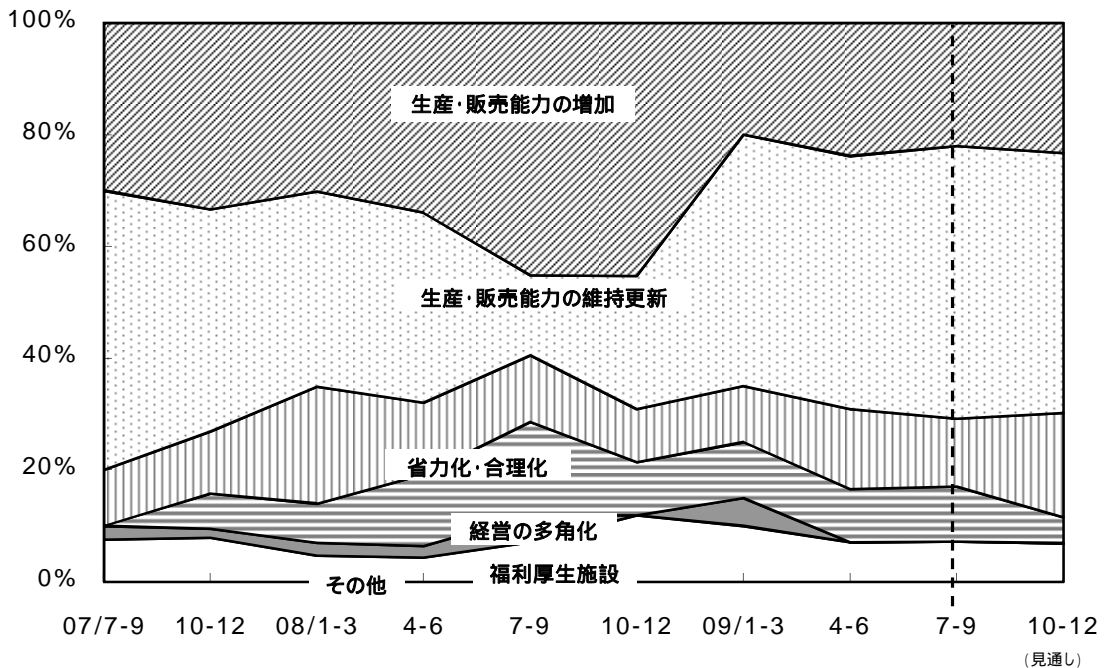
[7~9月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(18.1%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が48.8%（前期45.2%）でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が22.0%（同23.8%）で2位、「省力化・合理化」が12.2%（同14.3%）で3位となっている。

業種別にみると、全業種で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、製造業では「生産・販売能力の増加」「省力化・合理化」が同率2位となっており、建設業では「経営の多角化」、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が2位となっている。

[10~12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(21.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が46.5%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」23.3%、「省力化・合理化」18.6%、「その他」7.0%の順となっている。

業種別では、製造業、建設業、卸・小売業とも「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっている。製造業では「省力化・合理化」、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が高い比率となっている。

設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

～ 建設業、卸・小売業で下向き ～

[7～9月期の実績] 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が7.8%（前期9.2%）、「苦しくなった」が41.3%（同37.8%）であることから、D Iは 33.5（同 28.6）と下向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 37.6（前期 37.5）、建設業が 41.9（同 29.8）、卸・小売業が 26.2（同 20.6）で、製造業がほぼ横ばいで推移しているが、建設業、卸・小売業は下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が6.2%、「苦しくなる」が39.8%で、D Iは 33.6となり、7～9月期実績（ 33.5）とほぼ同水準の見通しとなっている。

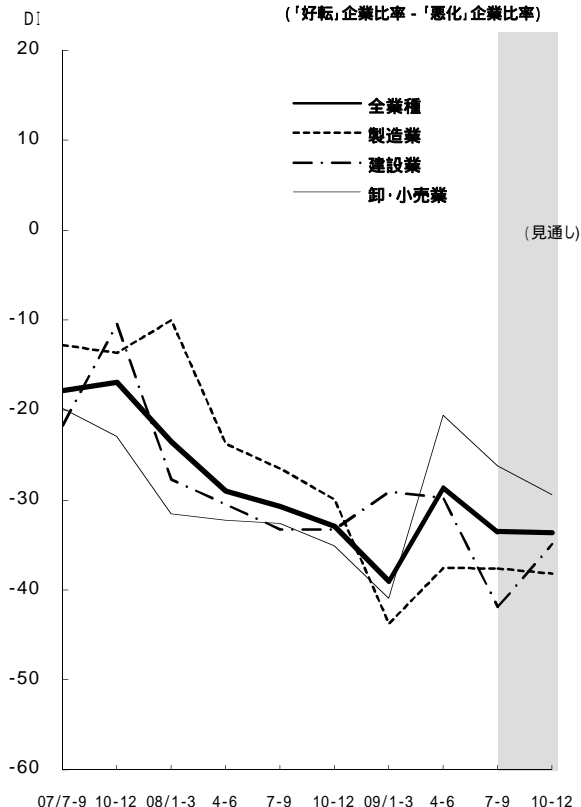
業種別にD Iをみると、製造業 38.2、建設業 34.9、卸・小売業 29.4となっており、7～9月期実績と比較して、建設業のみ上向き見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		（％）					D I
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	7～9月 (実績)	1.0	6.8	50.9	27.7	13.6	-33.5
	10～12月 (見通し)	1.0	5.2	54.0	23.6	16.2	-33.6
(製造業)	7～9月 (実績)	0.0	7.8	46.8	31.3	14.1	-37.6
	10～12月 (見通し)	0.0	7.9	46.0	28.6	17.5	-38.2
(建設業)	7～9月 (実績)	2.3	0.0	53.5	27.9	16.3	-41.9
	10～12月 (見通し)	0.0	2.3	60.5	18.6	18.6	-34.9
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	1.2	9.5	52.4	25.0	11.9	-26.2
	10～12月 (見通し)	2.4	4.7	56.4	22.4	14.1	-29.4

資金繰り動向(前期比)

(「好転」企業比率・「悪化」企業比率)



## (2) 現金・預金

[7~9月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が11.5%(前期**14.5%**)、「減少した」が48.2%(同**41.5%**)であることから、DIは 36.7(同 **27.0**)と下向いている。

[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が8.1%、「減少する」が40.9%であることから、DIは 32.8(当期 **36.7**)と上向く見通しとなっている。

## (3) 金融機関借入

[7~9月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が19.4%(前期**19.6%**)、「減少した」が33.0%(同**30.7%**)であることから、DIは 13.6(同 **11.1**)と下向いている。

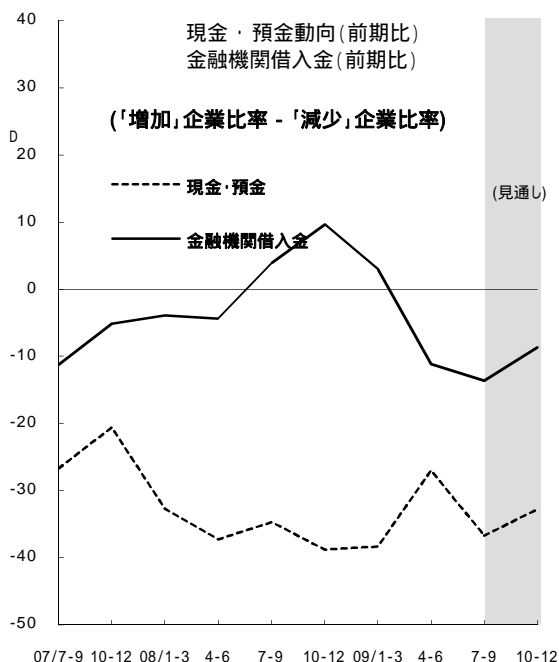
[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が21.0%、「減少する」が29.6%であることから、DIは 8.6(当期 **13.6**)と上向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7~9月 (実績)	1.6	9.9	40.3	34.6	13.6	-36.7
	10~12月 (見通し)	1.6	6.5	51.0	28.5	12.4	-32.8

金融機関借入金(前期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
全業種	7~9月 (実績)	4.7	14.7	47.6	26.2	6.8	-13.6
	10~12月 (見通し)	4.3	16.7	49.4	24.2	5.4	-8.6



#### (4) 販売代金回収期間

[7~9月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が3.7%(前期2.0%)、「長くなった」が22.1%(同13.1%)であることから、D Iは 18.4(同 11.1)となった。また、74.2%(同84.9%)の企業は「変わらない」としている。

[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が3.7%、「長くなる」が16.7%であることから、D Iは 13.0(当期 18.4)となる。また、79.6%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

[7~9月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が2.1%(前期3.9%)、「短くなった」が4.8%(同5.4%)であることから、D Iは 2.7(同 1.5)となった。また、93.1%(同90.7%)の企業は「変わらない」としている。

[10~12月期の見通し] 10~12月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.2%、「短くなる」が7.0%であることから、D Iは 4.8(当期 2.7)となる。また、90.8%の企業は「変わらない」とみている。

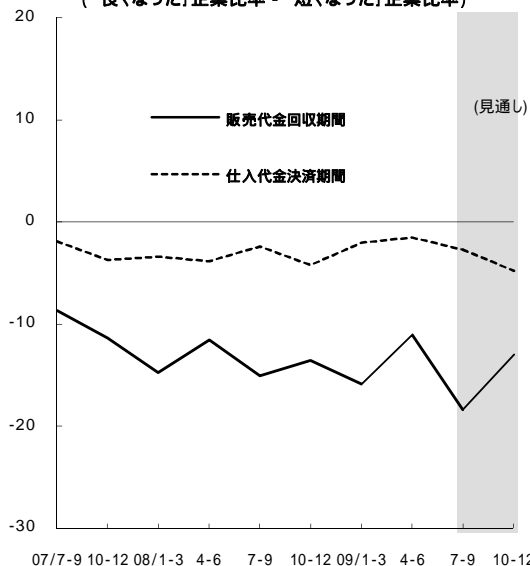
販売代金回収期間(前期比)

		(%)					D I
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	7~9月 (実績)	0.5	3.2	74.2	18.9	3.2	-18.4
	10~12月 (見通し)	0.5	3.2	79.6	12.4	4.3	-13.0

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					D I
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	7~9月 (実績)	0.0	2.1	93.1	3.7	1.1	-2.7
	10~12月 (見通し)	0.0	2.2	90.8	5.9	1.1	-4.8

販売代金回収期間動向(前期比)  
('短くなった'企業比率 - '長くなった'企業比率)  
仕入代金決済期間動向(前期比)  
('長くなった'企業比率 - '短くなった'企業比率)





## 5. 経営上の問題点について

～ 「売上・受注不振」比率下がる ～

7～9月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」36.0%（前期40.2%）、「収益不振」18.3%（同19.3%）、「過当競争」14.9%（同13.1%）、「販売価格安」11.5%（同11.1%）、「自己資本不足」4.8%（同3.1%）の順となっている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」39.4%（同42.3%）が5期連続でトップとなり、「収益不振」15.6%、「販売価格安」11.0%の順となっている。建設業では「収益不振」28.4%（同24.4%）がトップとなり、「受注不振」27.3%、「過当競争」25.0%の順となっている。卸・小売業では「売上不振」38.1%（同40.6%）、「収益不振」14.8%、「過当競争」14.2%の順となっている。いずれの業種とも「売上・受注不振」「収益不振」「過当競争」が上位を占めている。

